

2019年度 学校評価報告書

学校名	三田市立弥生小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

自ら学び たくましく 心豊かな弥生っ子の育成
～やさしい子 よく学ぶ子 いつも元気な子～

2 今年度の学校重点目標

- 1 安心・安全な環境づくり
- 2 よく考え、自ら学ぶ子の育成
- 3 地域・保護者に信頼される学校づくりの推進
- 4 いじめ対応チームを中心に いじめを許さない いじめのない学校作りの推進

3 総合的な自己評価

「やさしい子」「よく学ぶ子」「いつも元気な子」を目指して組織的に取り組み、児童会活動でもこの3つの視点で活動に取り組んだ。これらの取り組みを保護者・地域と共有し推進できたことで、下記の評価につながった。今後もコミュニティ・スクール事業を推進し、PDCA サイクルを明確にした教育活動に取り組んでいきたい。保護者の学校評価では、「学校行事や個人懇談、通信を通して子どもの様子がよくわかる」の項目が高い評価を得た。今後も分かりやすい情報発信を積極的に心がけていき、保護者や地域との連携を推進していきたい。

4 総合的な学校関係者評価

学校だよりやホームページで、昨年以上に情報発信に努め、取組の工夫や改善が見られ、教職員一体となって実践していることがよく分かる。地域も保護者も子どもの成長を見守りそれぞれの役割を果たしながら取り組んでいる。コミュニティ・スクールとしての既存諸活動の継続と充実をはかり、児童の「学力」「社会力」「生活力」を向上させていきたい。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学校運営	開かれた学校づくり ・学校地域運営協議会の推進 ・家庭や地域への情報発信(各便りやホームページの充実) ・学校支援ボランティアの活用と多世代交流活動(ランチサロン含)を通じた地域の絆づくり	○コミュニティ・スクール事業は5年目となり、地域住民・保護者・関係機関がそれぞれの役割を果たし、学校支援諸活動が定着してきた。 ○学校の様子をホームページや学年通信等で発信することに取り組んできた。学校への関心や信頼は増している。 ○ランチサロンでは、給食を介して高齢者の方と子どもたちの交流が定着している。	○地域コーディネーターとの連携により、学年の学習や児童会の行事等に有効な支援が進むように、見通しを持って打合せを開催する。 ○家庭・地域との連携の様子を通信等で発信する。	○学校だよりやホームページはよく拝見しているので、学校や子どもたちの様子がよくわかった。コミセンで子どもたちに出会った時やランチサロンでの会話のきっかけにもなった。 ○児童・保護者アンケートでは、両者とも「あいさつはできている」の割合が高いのはうれしい。地域での声を広げていきたい。
	生徒指導 ・基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚(児童・保護者アンケートの実施) ・児童の内面理解に基づいた指導の工夫と好ましい人間関係づくりの推進 ・いじめアンケート異学年交流の実施 ・保幼小中特連携の充実(生徒会・児童会の連携活動、接続カリキュラム)	○毎学期末に実施しているいじめアンケートを活用して、いじめの早期発見・早期対応に組織的に取り組めた。 ○目指す子ども像を毎月の生活目標としてきた。特に子どもたちの生活の様子から、具体的にイメージしやすい目標や、学年毎にねらいのレベルアップを図ったことで効果が見られた。 ○学期に1回、富士中校区の4校校長会を実施し、保幼小中特の連携について確認した。年3回の連絡協議会も定着してきた。また、中学校の入学説明会での体験授業も効果的だった。	○児童数も減ってきているが、遊びや掃除はもちろん、学習での異学年交流(総合的な学習、家庭科実習他)も、効果的で有意義な交流の充実をはかる。 ○毎月の全校朝会で、生活目標の振り返りや今月の目標確認をおこなっているが、各学団朝会での励ましと日々の振り返り、家庭との連携を通信などで活用し推進する。 ○4部会の交流を充実させる。	○ペットボトルのキャップやプルタブ収集活動は、まちづくり協議会とも連携を図り今年度の2回目の児童や生徒の交流会で主旨など共有し、次年度につながったのは、とても有意義で良いこと。今後もこのような活動を続けてほしい。 ○「あいさつ運動」も「にこにこデー」とネーミングし、あいさつを大切に思う意識向上は地域での子どもの姿に感じる。今後の取り組みを応援していく。
教育課程 学習指導	各教科等の言語活動 ・授業公開(一人一授業、道徳、各教科公開) ・がんばりタイムの充実 ・読書活動の充実(朝の読書 弥生読書の日)	○「生活科、総合的な学習」の授業公開では、思考ツールの活用や発問等の実践を通して講師の指導を受け有意義な研究研修になった。さらに、道徳や他教科でも、授業公開月間を取り入れて、教員の資質向上と授業力向上、児童理解に取り組み成果が見られた。 ○今年度から火曜日の放課後に頑張りタイムを実施した。高学年対象で算数力向上が見られた。 ○学校司書の配置により、図書室の環境が大きく変化し、児童の読書意欲向上が見られた。図書ボランティアの読み聞かせは、年間を通して全学年週に一回実施できた。	○課題に対して効果的な思考ツールの研修と他教科への活用を実践していく。 ○道徳の公開は、各学年の教科書教材を知り、児童の反応や板書の工夫、振り返り、評価を職員みんなで共有でき有効だった。まだまだ今後も道徳や他教科の公開授業を継続していきたい。 ○学校司書と担任、ボランティアの連携を継続し、読書の楽しさを児童に伝え推進する。	○コミセンでの「てら小屋」学習は、毎週木曜日、金曜日に多くの児童が参加している。「分りたい、学びたい」意欲が強く、熱心に指導を受けている。学校での学習との両輪に成ればと思う。 長期休業中の「宿題お助け隊」も多くの児童が参加している。今後も継続していきたい。 ○「アリスの会」の朝の読み聞かせは、週に2回お世話になっている。読書意欲向上につながってほしい。
	人とのつながりを大切にしたい授業づくり ・地域資源や人材、地域特性を活かした学習活動の充実 ・体験活動を核とした探究的な学	○生活・総合的な学習の研究を中心に関係機関や地域との連携も深まり、学習内容の充実が新たな探究的な学びの展開となってきている。 ○学びの成果を、どの学年も他学年、保護者、地域の方に発信する機会が出来る。	○年間カリキュラムの見直しを行った。今年度の実践から新たな単元の中で地域との関わりを探究する。 ○探究活動で得たことをいかに相伝えていくかを研修する。	○地域の特性や人材を活かした教育活動は、地域の再発見や元気につながっている。学校支援は今後も協力する。
課題教育	特別支援教育 ・ユニバーサルデザインを活かした学習環境作り ・児童支援スタンダードの推進	○教育支援の環境作りとして、年度始めに研修を行い、学期に1回は、全職員で各教室環境について交流と共有を図った。児童支援に有効な掲示や学習効果につながる有効な研修となった。 ○支援の系統が課題である。	○児童理解の視点で、有効な支援を発信し、改善を図っていく。 ○具体的な教材や教具の情報交換も積極的に推進していく。	○どの子に対しても、丁寧に接しているのが分かる。いつも掲示版の児童の作品を見たり読んだりするのが好きだ。成長が見られる。
	食育 ・栄養教諭と連携した食育推進 ・保護者、地域と連携した「食」に関わる実践	○今年度もやよいファームの方々と生活科や理科で児童の学習に有効な体験活動を仕組み成果が見られた。 ○月に1回のランチサロンでは、栄養教諭の「ランチルームだより」も好評だった。た給食のレシピも児童や保護者も好評で、への関心が高まった。	○地域コーディネーターと学校コーディネーターと連携しているため、見通しが持てる。今後新たな学習や活動への開拓と精選を検討する。 ○栄養教諭の気付きや児童の食課題について、担当や担任と具体的なねらいを提示し実践する。	○やよいファームの方々と児童との交流は、野菜作りや畑の話など続けていきたい。 ○保護者や地域との給食交流会や異学年交流会など、ランチルームの活用をより進めていきたい。

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
6月	オープンスクールについてアンケート実施
8月	1学期の振り返りと分析
12月	2学期の振り返りと分析
1月	児童・保護者アンケート実施
2月	児童・保護者アンケート結果分析と学校自己評価結果分析(次年度の教育活動への反映)

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
5月21日	第1回 委員委嘱 学校経営方針について 今年度の活動について
7月16日	第2回 学校評価 学力向上指導改善プランの説明 合同美化活動
9月10日	第3回 合同美化活動の振り返りと意見交流 2学期の学校支援計画説明
12月10日	第4回 安全パトロールの説明 保護者アンケート「グリーン作戦」について
2月20日	第5回 安全パトロールについて保護者アンケートの結果と意見交流 次年度の放課後子ども教室について

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む 8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
4月	学校だより ホームページ PTA 総会	今年度の学校教育目標や指導方針について	
7月	学校だより ホームページ	運動会 オープンスクールのアンケート結果と課題について学校の考え方も含め公表	○